

おなががすいた

広島県立広島北特別支援学校

小学部第4学年 岡野 有里

$\forall \epsilon > 0 \exists \delta > 0$

$\forall \delta > 0 \exists \epsilon > 0$

$\forall \epsilon > 0 \exists \delta > 0$

$\forall \epsilon > 0 \exists \delta > 0$

$\forall \epsilon > 0 \exists \delta > 0$

$\forall \epsilon > 0 \exists \delta > 0$

$\forall \epsilon > 0 \exists \delta > 0$

$\forall \epsilon > 0 \exists \delta > 0$

10 K8 # (H) → 5 H 1 2 K8 ○

H 1 2 10 # 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

H 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

→ 5 10 15 ○

<指導者の言葉>

本児童は、大変豊かな想像力をもっており、日々の行動を自分なりのストーリーに落とし込み、教師とやり取りをしながら楽しんでいます。絵本を読むことやおしゃべりをするのが大好きで、持ち前の想像力を生かして、苦手なことに取り組む際も自分で気持ちを切り替えて、教師と一緒に学習に励んでいます。特に毎日の「体づくり」は、年度当初は「やりたくない。」と、しゃがみ込むこともありましたが、徐々に「おなかがすいた。今日はパンだ!やったあ!」など、大好きな給食の事を考えて自分を励ましながら頑張っており、取り組めるようになってきました。

今では様々な気持ちを言葉で伝えられるようになってきた本児童ですが、元々自分の気持ちを伝えることがあまり得意ではありませんでした。素直になれず黙ってしまうことや、理由があることでもどのように伝えればいいのかわからず頑なになってしまうこともありました。今年度は児童が少しでも自分の思いを言葉に表せるよう、休憩時間等を使い、ホワイトボードや紙に絵や文章を書きながら気持ちを聞き出し、思いを伝える練習を積み重ね、徐々に「ちからがでない。」「がまんできない。」「いっしょにやりたい。」など、自分の気持ちを少しずつ伝えられるようになりました。

本作品「おなかがすいた」では、大好きな給食をテーマに児童との会話の中から生まれた言葉をまとめ、児童と一緒に文章の並べ替えをし、1つの作文にしました。言葉を並べ替えた後、作文のお手本を見ながら清書しました。「お腹が空いた気持ちや、食べることが大好きな気持ちを表現してみよう。」と伝えると、お腹が空いた気持ちは濁点を多く書くことで、給食や食べることが大好きな気持ちは長音記号「ー」や句点「。」の大きさを表現しました。マス目をはみ出すほどの大きな文字も使って個性たっぷりに表現できました。また、作文中にある「このじかんまでがまんしました。」「おまたせすぎです。」は、児童との会話の中で出てきた、素直な気持ちのこもった、児童ならではの素敵な表現です。

この作文と一緒に作った後、児童自身も気に入って、何度も何度も読み返していました。その姿から、気持ちを自分なりに表出できる喜びと、自分の言葉で表現することへの自信の深まりを感じます。文字にも文章にも、児童の個性を十二分に発揮することができた、素直な思いあふれる作文です。